

第668回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2024年11月度 ——

◇ 議題

「ふるさとWish 鳥栖市」

実施期間：2024年8月5日～11日

◇ その他

2024年11月18日（月）開催

九州朝日放送株式会社

第668回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024年11月18日(月) 15時30分～16時55分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長	上野 恵梨奈
副委員長	山根 久資
委員	副田 智幸
委員	小柳 美佳
委員	森 慎二
委員	泗水 康信
委員	林田 真心子

欠席委員数 1名

委員	サーズ 恵美子
----	---------

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森 君 夫
取締役 報道制作局長	大迫 順 平
執行役員 総合編成局長	柴田 高 宏
地域プロデュース本部長	西村 香 織
地域プロデュース本部 部長代理	御田 幸 司
番組審議会事務局長兼広報室長	吉岡 実
番組審議会事務局(広報室)	松 永 俊 郎

4. 議題

- (1) 「ふるさとW i s h鳥栖市」(実施期間:2024年8月5日~11日)
- (2) 11月・12月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 10月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見(概要)

委員からは、

- 「ふるさとW i s h」は、K B Cが自治体と連携して魅力を引き出し、地域を活性化したいという思いが感じられる素晴らしい取り組み。自治体と共同で制作することにより幅広い情報が届けられていたし、番組に広がりや深みが生じていた。
- 放送局が「取材する側」と「取材される側」の関係を超越日常的に地域とつながる取り組みとして評価している。他局にはないK B C独自の大変素晴らしい取り組みだと評価している。
- 自治体のニーズを聞き取る力が重要になると思うが、「ふるさとW i s h」をきっかけにしてK B Cと自治体の両者の関係性がより循環してくことを期待している。
- いろんな人が参加する仕組みが地域活性化の一助になっている。
- 週間で「ふるさとW i s h」と銘打ち、テレビとラジオの様々な番組で放送することにより、いろんな層の視聴者に自治体の魅力を伝えている。
- 今回の「ふるさとW i s h鳥栖市」は、ラジオ、テレビともに鳥栖市の魅力がぎっしり詰まった内容だった。あまり馴染みのない鳥栖市を知るための情報番組として役に立った。
- ラジオ「アサデス。ラジオ」で杉山39さんが紹介したそば屋さんは情景が目につかんだ。英会話スクールのランドリーさんもどんな人物なのか想像しながら聴くのが楽しかった。
- テレビで河内河川プールが紹介していたが、楽しそうで良いなと思った。夏らしい話題で、子どもを連れて行きたいと思った。
- テレビ「高校生のじかん」でP R動画を制作した高校生の姿に感動した。地元愛を深めてもらい、いずれ地元に戻ってきてほしいという自治体の思いも上手に反映されていたと思う。
などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- よく取り上げられる地域がある反面、あまり取り上げられてない地域などはないのか。規模によって取り扱いにばらつきは生じないのか気になった。
- 自治体の要望で取材することもあるのか、取材先をどのようにして決めるのか気になった。
- ラジオによる情報発信は集中して聴かなければ理解が難しいと感じた。「ながら」で聴くと途中で何を話しているのか分からなくなった。
- 「ふるさとW i s h鳥栖市」は、テレビで14枠、ラジオで19枠を使用して情報を届けた

とのことだが、それぞれの番組で他の枠を紹介するような工夫も欲しかった。

- テレビ「W i s h +」と「シリタカ！」で2度河内河川プールが紹介されたことに重複感を覚えた。
- テレビ「高校生のじかん」で高校生が制作したPR動画は、少し地名の由来などを紹介するテキスト情報がほしかった。
- テレビ「W i s h +」で若い女性のリポーターを「ちゃん」づけで呼ぶ場面が気になった。衣装についても、もう少し配慮してあげる必要があったのではないか。
- テレビ「W i s h +」のリポーターが河内河川プールで遊ぶ子どもに「どこから来ましたか？」と尋ねる場面は、子どもが個人情報の特定につながる返答をしないかと心配した。
- 過去に放送した内容をまとめたサイトを用意すれば、利便性が向上するのではないか。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- KBCは“地域プロデュース企業集団になること”を目標に「ふるさとW i s h」を継続しており、自治体と年間を通じて情報交換できる関係性を築いている。
- 「ふるさとW i s h」の二本柱は地域活性化と防災。日頃より担当者が自治体から様々な相談を受け、災害時は自治体の地域リポーターから電話で状況を伝えてもらうなどしている。
- 規模の小さな自治体でも毎年実施を希望するところもある。一概に規模だけで差が生じるわけではないと考えている。
- 自治体から十分なヒアリングを行い、地域プロデュース本部の担当者が各番組と連携して地域の最適な情報発信を提案している。
- ラジオでは伝わりにくい部分があったかもしれないが、様々なご意見を参考にしながら更なる地域活性化の取り組みを継続していきたい。
- 通常の番組はそれぞれが“点”として情報を発信しているが、「ふるさとW i s h」は“面”となりふるさとの魅力を届けている。
- 「テレビで2度河川プールが紹介された部分は重複感があった」というご指摘について、放送日と放送番組が違うので視聴者層が異なる。別番組の視聴者に情報を届ける意図だった。
- 「高校生が制作した動画にテキスト情報がほしかった」というご意見について、鳥栖市には交流人口を増やしたいという目的があったので、意図的な演出だった。
- テレビ「W i s h +」のリポーターの衣装について、もう少し注意と配慮が必要だと思った。
- 「福岡・九州 ジモタイムズ W i s h」というサイトを運営し、過去に紹介した情報も掲載している。サイトの認知度を更にあげていきたい。

などの説明をしました。